

平成21年1月28日 知事・市長・会頭 共同記者会見 発言要旨  
「京都 知恵と力の博覧会」(仮称)及び「KYOTO 地球環境の殿堂」(仮称)について

発表にいたる経過について

立石会頭

昨年12月25日に、京都経済の安定と成長を図るため、オール京都でこの難局に立ち向かう決意を示した「中小企業等の経営安定と雇用の維持・確保のための緊急アピール」を地元の経済団体・労働者団体・行政機関が一体となって取りまとめた。その後、具体的にどのように雇用機会を創造していくか、山田知事、門川市長、私で2度にわたり協議してきた。

緊急的な雇用対策については、政府の2次補正予算に盛り込まれている「特別交付金」を活用し、具体的な取り組みを進めようと協議をしている。その他に、世界全体が暗いイメージに陥っている中で、京都として皆が元気になれるようなイベントを開催できないものかと考えてきた。

百年に一度といわれる不況を、苦難と役割を分かち合いながら乗り切り、明日の活力ある京都経済を目指すために、私は、今年はずまず足元を固めるための一年として金融・雇用・観光という「3つのK」を緊急対策として掲げ、推進していくことを年初に申し上げた。

本日発表する「京都 知恵と力の博覧会 ~発信!京の底ぢから~」(仮称)事業は、行政・企業・市民といったオール京都で取り組むことで、不況の中で落ち込んでいるマインドを向上させることにつながるとともに、「3つのK」の2つ、観光需要と観光面での雇用創造を可能とする事業となることを期待している。

また2つ目の「KYOTO 地球環境の殿堂」(仮称)については、2012年の議定書の第一約束期間の終了後も、環境の都市として世界にアピールしていくことが必要と、三者の間で意見が一致し、これもオール京都で取り組むこととなった。私は、環境についてオール京都でビジョンを持つことが大切だと思っている。この事業は、「地球環境の殿堂」というモニュメントのもとで、京都全体が一体となって環境に取り組む動機付けになるのではないかと期待している。京都経済界としても、持続可能社会に対応した「環境対応経済」への変換をいち早く推進していく必要がある。この事業も将来の産業構造を、「環境」をキーワードに変革することにより、新たな雇用機会の創造への取り組みであるといえる。

また、事業内容については、まだ詰め切れてない部分もあるが、マスコミの皆さんにも趣旨を理解いただき、オール京都の一翼を担う立場としてもご協力・ご賛同いただきたい。

「京都 知恵と力の博覧会 ~発信!京の底ぢから~」(仮称)の概要説明

山田知事

京都が日本に発信し、そして日本・京都を元気にしていく力は観光にあるのではないかと

この時代において、京都がしっかりと京都の魅力をアピールし、観光需要を引き起こしていくような催しを行っていきたいというのが、私どもの共通の願い。

京都の持っている伝統や文化、技の蓄積を、多くの人々に見ていただくことによって、多くの方が自信を持って、日本の文化のすばらしさに触れていただく。企業の努力も見ていただくことによって、元気になっていただくという主旨の事業だ。

実施時期は、今後、その他のイベントなどの状況を踏まえて検討していくが、今年の10月～12月を想定し、2～3週間程度開催する。実施場所については、京都市内を中心に、各参加事業所施設などをパビリオンと位置づけ、「京都が博覧会場になる」というコンセプトで行いたい。府・市・会議所が連携して、関係団体も参画いただきながら、実行委員会を組織する予定をしており、そこで具体的な内容を詰めていく。また、「第26回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」や11月1日の「古典の日」もできれば織り込んでいきたい。

京都というと、かつては博覧会のまちだった。久しぶりに京都らしい元気、日本の底力を発揮する博覧会として多くの方に集まっていたいただければと思っている。

#### 「KYOTO 地球環境の殿堂」(仮称)の概要説明

##### 門川市長

この設立構想は、京都議定書誕生の地として誇りと使命感をもち、次代に発信していくことが大事だという思いから、オール京都で力を併せて推進構想を作っていくもの。

殿堂は、平成22年の議定書発効5周年を記念し、世界で地球環境問題に著しく貢献された方の功績を顕彰し、併せて地球温暖化問題へのメッセージを京都から発信する。京都の伝統工芸品で作成したレリーフと、京都を訪れた世界の首脳の問題に対する誓いやメッセージ、署名などを展示する。また、議定書を発効した2月16日に合わせて、殿堂入りされる方を、毎年数名選び公表する。具体的にどのような方が殿堂入りされるかは、今後選考委員会において検討していくこととなる。

殿堂を設置する場所としては、議定書が採択された国立京都国際会館が最も望ましいと想定しているが、具体的には本年5月に立ち上げる「殿堂設立推進委員会」において、場所を含めて検討を進めていく。設立推進委員会は、国、府、市、会議所などで構成し、殿堂入りの選考基準や施設の設計、選考委員会の設置を審議していく。

平成22年2月の開設を目指して準備を進め、殿堂入りされた方による記念講演やレセプションなどの事業も併せて行い、環境先進都市・京都からの発信を強力に進めていく。

本年は京都議定書の次期枠組みが議論される非常に重要な年だが、京都議定書は温室効果ガスの削減義務を定めた国際社会の初めてのルールとして、地球環境問題に対する取り組みを牽引してきたものであり、今後も大変重要な役割を果たしていく。また、「DO YOU KYOTO? (環境にいいことしていますか?)」という言葉は、環境問題への代名詞になっている。そういう誇りと使命感をオール京都で共有しながら世界に発信していきたいと考えています。

今後とも世界の要人が集まり、京都が地球環境問題解決への役割を果たしていくという願いも込めて殿堂を設立したい。

#### 記者からの質問

**博覧会の開催は、具体的にどのような形で雇用に結びついていくのか？また、継続開催は、考えているのか？**

#### 立石会頭

雇用創出や経済効果、目標の来場者、費用負担の問題など、これらはこれから実行委員会で検討していく。

百年に一度の厳しい年に開催ということを目的にしているので、継続する必要があるかということについても、今後の協議に委ねることとなる。

#### 山田知事

源氏物語千年紀事業の経済効果が1000億円以上。地域に及ぼす経済効果と雇用創出の効果というのは十分期待できる。数字や目標を持ちながら頑張らないといけないが、必ず地域経済にインパクトを与えることができる。直接雇用の効果もあると思うが、地域経済への影響が雇用に跳ね返ってくる分が大きいと見ている。

今、一番心配しているのは、既に観光客が落ち始めていること。逆にそれを前向きにしていこうとする努力をするということだ。

#### 門川市長

京都は危機の時に博覧会を行っている。明治維新で都の地位を失った時、明治4年に全国で初めて博覧会を開催した。それが琵琶湖疏水や水力発電所、市電の建設などにつながった。世界恐慌が押し寄せた時には京都市は観光課を作った。一番の危機の時には観光とか博覧会を開催して、オール京都で底力を発揮し、京都を全国に発信していくという歴史にも学んでいったらいいと思う。

**博覧会の実施時期の決定はどう考えているのか？また、来場者はどういった人をターゲットに想定しているのか？**

#### 立石会頭

国内外の観光客やバイヤー、学生も含めて、ターゲットが考えられる。また、博覧会の中身が全国に見えるように、どのように情報発信していくかが、これから実行委員会としての検討課題になっていく。

**山田知事**

時期については 2 つの考え方がある。閑散期を狙うこと。もうひとつは、源氏物語千年紀事業で「古典の日」を位置づけたので、そういった一連のイベントに焦点を合わせて、開催をしていくこと。こうしたことを踏まえて今後考えていけばいい。

ターゲットを絞る必要はない。誰もが来て楽しい博覧会のようなイメージがある。

**地球環境の殿堂のレリーフのイメージは具体的にどんなものか？また、京都を訪れた VIP にメッセージを残してもらおう場所というイメージなのか？**

**門川市長**

京都ならではの伝統的なもの、あるいは伝統と先端の融合も選択肢にあると思う。世界中の首脳が、環境への決意をこの京都で記していただける、そんな場にしたい。

**山田知事**

京都は迎賓館があり、各国の首脳が訪れるが、それに付加価値を付けたい。「京都に来た首脳は京都の殿堂にメッセージが残せる。京都に来なければメッセージは残せない。だったら京都に行ってメッセージを残したい・・・」。先の話になるが、「京都に行こうと」思う各国首脳が増えてくれるのが一番の理想。

**殿堂のレリーフについて、先端産業との融合はどのようなイメージがあるのか？**

**具体的に国との協議はどこまでできているのか？**

**京都国際会館は殿堂の場所として内諾を得たという解釈でよいのか？**

**門川市長**

工芸品には、木工、漆もあればセラミックなど様々なものがある。型にはまらないで、多くの市民の方々の意見をいただいて決めればいい。京都の伝統工芸を生かしていこうという趣旨である。

設置場所は、これから推進委員会等で詰めて話をしていくことになる。内諾を得たわけではない。

**山田知事**

環境省や観光庁など、国とは様々な連絡を取り合っている状況だ。感触はいい。

以上

『京都 知恵と力の博覧会 ～発信！京の底ぢから～』（仮称）及び  
『KYOTO 地球環境の殿堂』（仮称）について（案）

平成21年1月28日  
京 都 府  
京 都 市  
京都商工会議所

この度、京都府、京都市及び京都商工会議所が連携・共同し、次の事業を平成21年度に新たに実施していくことで合意をしましたので、お知らせします。

1 『京都 知恵と力の博覧会 ～発信！京の底ぢから～』（仮称）の概要

趣 旨

経済・雇用情勢が世界的に急速に悪化する中で、日本を代表する京都の「知恵」と「力」を改めて内外にアピールすることで、元気な京都づくり、日本づくりにつなげることをする。

事業内容

京都産業の持つ優れた技術・製品や京都を代表する文化・芸術、洗練された食・もてなし等を多くの人々に楽しんでもらう博覧会を、京都企業等の協力も得ながら開催する。

(1)実施時期

平成21年10月～12月のうちの、2～3週間程度

(2)実施場所等

京都市域を中心に、各参加事業所・施設等をパビリオンと位置付け、実施。  
公開スポット目標：500箇所

【想定事例】

- ・京都企業の工場、工房、研究所等の一般公開  
製品・技術の展示、技術の実演、体験教室等
- ・企業ミュージアム（企業所有の美術品等）の特別公開
- ・町家ミュージアム等の紹介、町家での伝統文化体験
- ・京の食めぐり、京料理セミナー
- ・旅館・料理店・商店街・小売店等の協賛割引の実施
- ・神社仏閣、庭園等の特別公開
- ・文化・芸術イベントの実施
- ・まち歩き観光コースの紹介 等

(3)実施体制

京都府、京都市、京都商工会議所が連携・共同し、また、観光関係団体の参画も得ながら、実行委員会を今春に設立予定。

- その他 ・「第26回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」及び「古典の日」の取組とも一体的に実施。  
・事業内容や必要な経費等については、今後、京都府、京都市及び京都商工会議所で調整。

担 当

【「京都 知恵と力の博覧会」（仮称）関係】  
京都府 商工労働観光部 産業労働総務課（瀧山参事）  
TEL: 075 - 414 - 4825  
京都市 産業観光局 商工部 経済企画課（松村課長）  
TEL: 075 - 222 - 3322  
京都商工会議所 企画室（日野次長）  
TEL: 075 - 212 - 6401

## 2 『KYOTO地球環境の殿堂』（仮称）設立構想の概要

### 目 的

「京都議定書」発効5周年を記念して、世界で環境に著しく貢献した方々の功績を讃えて顕彰を行い、併せて地球環境に関するメッセージを京都から広く発信する。

### 内 容

- (1) 地球環境の保全、地球温暖化対策に著しく貢献した者の顕彰
- (2) 殿堂の設立
  - ・京都市内に設置（国立京都国際会館を想定）
  - ・肖像レリーフとその業績の展示（京都の工芸品で製作）
  - ・京都を訪れた世界の首脳の問題に対する誓い、メッセージ、署名等の展示
- (3) 毎年2月16日「京都議定書発効の日」に、殿堂入りする方数人を公表

### 推進体制

「KYOTO地球環境の殿堂」（仮称）設立推進委員会の設置

<構成> 国（環境省）、京都府、京都市、京都商工会議所、総合地球環境学研究所、国立京都国際会館等  
 （事務局は京都府、京都市、総合地球環境学研究所で対応）

### 当面のスケジュール

21年5月 「KYOTO地球環境の殿堂」（仮称）設立推進委員会の設置

- ・ 選考基準
- ・ 殿堂設計
- ・ 設置場所
- ・ 選考委員会設置、運営
- ・ オープニング企画等

22年2月 「KYOTO地球環境の殿堂」（仮称）のオープニング

### その他

- ・ 殿堂入りした方による記念講演、レセプション等の開催も検討
- ・ 事業内容や経費等については、今後調整

<殿堂イメージ例>



### 担 当

【「KYOTO地球環境の殿堂」（仮称）設立構想関係】  
 京都府 文化環境部 地球温暖化対策課（奥谷課長）  
 TEL:075-414-4701  
 京都市 総合企画局 地球温暖化対策室（高畑担当課長）  
 TEL:075-211-9281  
 京都商工会議所 企画室 （日野次長）  
 TEL:075-212-6401